日本気象学会
沖縄支部だより

発行：（公社）日本気象学会沖縄支部
〒900-8517 沖縄県那覇市おもろまち 2-1-1
那覇第 2 地方合同庁舎 3 号館
沖縄気象台地域防災推進課内

2024 年度日本気象学会沖縄支部研究発表会

令和 7 年 2 月 27 日（木）、2024 年度日本気象学会沖縄支部研究発表会を開催しましたので概要を報告します。なお、昨年度に引き続き、沖縄気象台における対面形式の発表に加えオンラインも併用した開催となりました。

1 支部長あいさつ（概要）

皆さま、本日は発表会にお集まりいただきありがとうございます。本日の沖縄地区での発表会においては、たくさんの発表があるということでとても期待しております。気象関連の研究は全国の支部でも行われていますが、沖縄でも研究成果が集められ、一生懸命取り組まれている様子をみて嬉しく思います。発表していただく皆さまにおいては、ぜひ今日の発表の中で受けた質疑等を踏まえてさらに充実した内容に仕上げていただければと思います。よろしくお願いいたします。

2 発表

研究発表会（座長：新垣理事（午前・午後後半）、シェリフ理事（午後前半））では、17 題（琉球大学 13 題、沖縄気象台 4 題）と多くの発表に対して活発な質疑があり、貴重な意見交換の場となりました。

琉球大学からは、気候変動関連で、記録的猛暑となった 2024 年夏の要因、温暖化対策が全球気候に与える影響、地軸の傾きと気候との関係、最終氷期最盛期における沖縄の気候について発表がありました。また、海洋関連では、深層流シミュレーション、沖縄本島近海の海面温度と気温の相関、マラッカ海峡の潮汐について、降雨現象関連では、沖縄の梅雨期における降水ピークや梅雨明けの考察、大雨発生のシグナル、線状降水帯発生の環境場に関する調査がありました。その他にも放電現象のフィールド観測や深層学習と雲認識など多岐にわたる研究発表がありました。

気象台からは、台風経路の長期変動による変化の把握や大東島地方における大雨事例解析の発表に加え、予報現場での利用を目指すことを目的に調査した突風可能性ガイダンスの検証や CNN を用いた GSM の台風補正モデルの開発の紹介がありました。

発表題目（所属：発表者）

① 台風経路の長期変動の把握と主要経路図の更新　（石垣島地方気象台：林 和彦）
② 深層流シミュレーション結果とパラメータの関係　（琉球大学理学部：新垣 智生）
③ Model-based Estimation of Tidal Regime Deformation Caused by Sea-Level Rise in the Malacca Strait　（琉球大学理工学研究科：Ulung Jantama Wisha）
④ 沖縄本島近海の海面温度と近傍地点の気温の相関について　（琉球大学理学部：松本 拓海）
⑤ 突風可能性ガイダンスを用いた「竜巻」キーワード付加の検討　（沖縄気象台：仲元 康智）
⑥ 2024 年 4 月 27 日の前線暖域内における大東島地方の大雨事例　（南大東島地方気象台：宮城 ゆず）
⑦ 地軸の傾きと気候・雲の関係　（琉球大学理学部：塚本 沙治乃）
⑧ 沖縄における 2024 年夏の記録的猛暑の要因とエルニーニョ終息の影響に関する分析　（琉球大学理学部：上田 和奏）
⑨ 2040 年からの温暖化対策が沖縄周辺海域と全球の気候に与える影響　（琉球大学理学部：松本 勇輝）
⑩ 最新の気候モデルで計算された LGM における沖縄の気候状態について（琉球大学理学部：杉山 北斗）
⑪ 梅雨明けの定義の再考（その 1）－当日の観測データからその日の梅雨明けを判断できるか？－　（琉球大学大学院理工学研究科：渡邉 朱里）
⑫ 2024 年 7 月東北豪雨における環境場の特徴　（琉球大学理学部：花島 佳希）
⑬ 沖縄梅雨の降水ピークの解析期間依存性　（琉球大学理学部：佐藤 健）
⑭ 沖縄県の顕著な大雨の予測に関する研究　（琉球大学理学部：石田 圭）
⑮ 畳み込みニューラルネットワークによる GSM の台風補正モデルの開発　（沖縄気象台：平仲 裕一）
⑯ 放電現象観測用アンテナシステムを用いたフィールド観測　（琉球大学大学院理工学研究科：東福 樹）
⑰ Deep Learning と色分析による青空に浮かぶ雲認識　（琉球大学工学部：仲村 颯太）

※予稿集は沖縄支部ホームページの「お知らせ」に掲載しています。http://www.msjok.com/wiki/

3　閉会の挨拶（概要）久木理事

皆さま、大変お疲れ様でした。今日は 10 時開始からこの時間まで 17 件と数多くの発表があり、質疑応答も非常に活発で密度の濃い発表会だったと思います。琉球大学の多くの学生の発表については卒業研究発表会の時にも聞きましたが、その際に指摘されたことをうまく改善・改良して発表していた印象でした。工学系の研修室の学生についても同様だったかと思います。今日は非常に長い間、皆さまどうもありがとうございました。

（参加者19名　オンライン参加８名）

第７回気象サイエンスカフェ沖縄

令和６年 11 月 30 日（土）、沖縄気象台新庁舎にて日本気象予報士会沖縄支部と沖縄気象台の共催のもと「第７回気象サイエンスカフェ沖縄」を開催しました。テーマを「気候変動の現状と気象データを用いた適応の最前線」として、国立環境研究所 気候変動適応センター アジア太平洋気候変動適応研究室　増冨 祐司 室長には、「気候変動の影響と適応の最前線」を、琉球大学 農学部 地域農業工学科　平良 英三 教授 には、「気象データを活用したサトウキビ・スマート農業の取り組み」を紹介いただきました。環境省自然環境再生事務所や沖縄県等の行政関係者、琉球大学等の研究者、報道機関なども含めて多くの方々に参加いただき、大盛況となりました。

ポスター

増冨室長の講話では、地球温暖化の影響が現れつつある中で、二酸化炭素などの温暖化ガス削減（緩和策）といった従来からの対策に加えて、近年進められている水稲の高温耐性品種の開発といった適応策が紹介されました。平良教授は、県内のサトウキビの収穫量や品質にも気候変動の影響があり、その適応が重要と示されました。

講演の様子

後半 40 分間のフリートークでは、参加者から適応策の具体や成果に関する多くの質問がありました。ファシリテーターの RBC 琉球放送　松澤まゆ気象キャスターには、話し手と聴講者の懸け橋となっていただき、会場の雰囲気が和みました。

フリートークの様子
（登壇者の左は増冨室長、右は平良教授）

終了後のアンケートの結果では、内容が“わかりやすかった”、“満足した”との回答が 9 割以上、“気候変動に対する意識が変わった”との回答が 6 割を超えてありました。また、「気候変動という大きなテーマが具体的なお話で身近に感じることができた。」などのコメントもありました。本会を通じて、緩和と適応を組み合わせた気候変動対策の最前線に触れるとともに、日ごろから私たちにできることについて、あらためて考える機会となりました。（参加者 48 名）

事務局からのお知らせ

■「沖縄支部だより」の原稿募集

事務局では「沖縄支部だより」に掲載する会員からの原稿を募集しています。

沖縄支部会員の活動報告、気象知識の普及活動の状況、沖縄の気象に関する事例解析・統計調査など情報交換に役立つ原稿であればどのようなものでも結構ですので、支部事務局までご投稿ください。会員各位の積極的な投稿をお待ちします。

■住所変更届のお願い

転居や転勤により登録情報に変更が生じた際は、次の方法で手続きを行ってください。

〇ご本人による手続き（オンライン申請）
気象学会本部ページの「入会案内」ページ
（以下 URL）にて登録情報の変更を行います。
https://www.metsoc.jp/membership-2

【方法】気象学会本部ページの「入会案内」ページにおいて、「会員登録情報の変更」画面に入り、必要事項を記入の上、送信することで手続きは完了します。ご不明な点がありましたら事務局までお尋ねください。

■メールアドレス登録のお願い

支部だより発行、総会などの開催通知等は支部全会員に E-mail で配信しています。まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、E-mail アドレスをご登録いただくようお願いします。

登録は、住所変更届と同様に、「会員登録情報の変更」からのオンライン申請でお願いします。

■日本気象学会への入会案内

みなさまの周りに気象学を専攻している・気象関連の仕事をしている・気象に興味を持っているような方がいらっしゃいましたら、日本気象学会への入会をお勧めいただくようお願いします。支部事務局までご連絡いただければ、入会方法などご案内します。